

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ななかまどユニット)

Table with 2 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Values include 0191000231, 社会福祉法人 北海道友愛福祉会, グループホーム ゆうあい, 江別市豊幌美咲町23-14, 令和1年7月23日, 令和1年9月27日.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0191000231-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Values include 企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部, 札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階, 令和1年 8月21日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 入居者一人ひとりが自分らしく生活を送れるよう会議や日常的に話し合いをしている。
施設併設の管理栄養士による食事提供の為、栄養面や豊富なメニューが揃っている。
調理が少ない事で入居者様との時間が多く持つことができ、個別に関わる時間がある。
中央に大きな交流ホールがある為、行事やボランティア活動が容易に可能。
花壇や畑が完備され入居者様が容易的に利用できるようになっている。
近くに公園があり、休日は子供達が楽しく笑う声が聞こえてくる。
住宅街に立地しているが緑に囲まれて日中でも夜間帯でも静かな環境で過ごす事ができる。
認知症カフェの実施。開設して2年目です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、江別市の東方向にある豊幌地区の閑静な住宅地に位置する平屋建て2ユニットのグループホームである。JR豊幌駅から徒歩圏内で、利便性が良く、家族や友人、知人の来訪も多い。グループホームは、同法人内の盲人養護老人ホームの敷地内に隣接しており、夏祭りや避難訓練は、合同で開催している。法人は、昨年45周年を迎え、「和顔愛語」の精神を基本として、盲人養護老人ホームや特別養護老人ホーム、ケアハウス、訪問介護、居宅介護支援、地域包括支援センター、保育園などを運営しており地域からも信頼が厚い。ホーム内は、建物正面が玄関で、中に入ると地域交流スペースとなっており、左右対称にユニットが配置している。交流スペースでは、地域包括支援センターと連携して、毎月認知症カフェの開催をしており少しずつ地域に広がっている。避難訓練や事業所の行事にはボランティアや地域の方が多数参加協力があり、地域の関わりが大きい。また、ふまねっとインストラクター取得者も沢山おり、認知症介護の事業所としてこれからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取組の成果 (with sub-rows and checkboxes), 項目, 取組の成果 (with sub-rows and checkboxes). Rows 56-62 describe various service outcomes and their evaluation.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議等で伝達し、地域密着型サービスの意義と理念の共有している。職員には実践に向けて取り組みをお願いしている。	事業所の理念は、事業所内に掲示し利用者や家族にも周知するよう努めている。職員は、毎月の全体会議の内、年4回程度理念について振り返り、職員間で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者が地域と繋がりを絶たないよう買い物や散歩、地域の行事に参加している。認知症カフェの実施や自治会の集まりへ参加し地域の方と交流する機会が増えている。	自治会のお祭りに事業所として露店で参加協力している。また、事業所内の地域交流スペースで地域包括支援センターと連携して認知症カフェを月1回開催したり、盲人養護老人ホーム恵明園と合同の夏祭りは、200～300人位参加するなど盛大な地域行事となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へ出向く機会ができないので認知症カフェで認知症の理解や介護相談を実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みや施設状況、認知症に関する事などを会議を通して報告・検討し、取り入れられる意見はサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、デイサービスの事業所と合同で開催しており、家族や自治会役員、民生委員や地域包括支援センター担当者、認知症地域支援推進員が参加して定期的の実施しており、運営状況の報告や意見交換を行いサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターとはイベント等で交流を実施しています。また、認知症カフェを実施してから今年度、市役所職員とカフェの状況を報告する機会がありました。	地域包括支援センターと連携して、事業所内の地域交流スペースで認知症カフェを毎月開催しており、状況の報告などで市担当課と関わりが増え、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員採用時や内部研修で指定基準の身体拘束についての勉強会を開催しています。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内で、身体拘束ゼロ委員会を設置して、毎月委員会を開催して検討している。また、身体拘束をしない指針やマニュアルを整備して、研修会を年2回実施して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修を通し、学ぶことができている。また、併設施設と研修やユニット会議に行動が虐待に繋がっていないのか検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修へ行き、会議時に伝達研修する。理念に添ってその人らしい生活ができるよう日々、話し合い、会議を通し、支援につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に本人・家族面談を行い、契約等の説明は補足を入れながらわかりやすく伝達している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望があれば、会議を通して検討し、可能であれば、運営に反映している。	ホーム便りを毎月発行して、家族へ運営状況の報告をしており、裏面には利用者の近況報告を担当者が記載している。家族からの意見や要望は、来所時に殆ど聞き取り会議で検討し、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	アンケートや職員全体会議を毎月開催し、職員の意見・提案を聞く機会を設け反映させている。 年3回、面接し意見等を収集している。	ユニット会議は月1回行い、全体会議も毎月行っている。職員へのアンケート調査も年1回実施しており、個人面談も年3回定期的に行い、職員からの意見や提案は運営に反映している	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年3回の人事考課面接を通じて、職員個々の努力や向上心を把握し、職員環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加を促し、職員にはスキルアップへの取組みを支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市内グループホームの連絡会(あおいの会)に加入し、職員間交流やサービスの質向上に取り組んでいる。江別オレンジRUNの活動に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に慣れていけるように、職員とのコミュニケーションだけではなく、他入居者の会話の仲介等に心掛けている。本人が出来る事・出来ない事、好きな事・嫌いな事、要望・不安・困っている事が把握出来るように日々関わり、関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時や見学時に面談を行い、家族様とお話している。 サービス開始後は面会時に入居者様の生活の様子等を伝えるとともに、家族様の要望等もお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報をもとにアセスメントを行い、必要な支援を見極め、全職員で共有し、安心・安全な生活に円滑に移行出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が全て行うのではなく、体調に考慮しながら食器拭きや雑巾縫い等出来る家事等を一緒に行っている。 作業を一緒に行う事で、暮らしを共にする者同士の関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にお任せするのではなく、職員も物品等で足りない物の確認をし訪問された際にお願いするようにつとめている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望時の電話の使用や、家族・友人・知人からの電話の取次ぎを行っている。 初詣・花見・外食等、地域の馴染みの神社や公園、飲食店を活用した行事を年間を通して行い、支援を行っている。	友人や知人の来訪が多い。病院受診の帰りに馴染みの店や飲食店に寄ったり、美容室などは馴染みの店舗に行くなど関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が交流を持てるよう仲立ちし、会話など取り持つ事もある		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて家族様と連絡を取り、必要時には情報提供・相談・支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画作成時に担当者会議の際に本人様・家族様から希望や意向を聞き取り反映し、モニタリングでは本人様の希望や意向をもとに配慮しながら本人本位に検討を行っている。	利用者の思いや意向については、介護計画作成時の担当者会議にて、本人や家族に希望や意向を聞き取り、モニタリングも本人の意向を配慮しながら本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしを出来る限り、変わらぬよう努め経過観察している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ここの生活リズムや心身の状態を把握しどんな変化でもきずけるよう注意情報共有している。状況の変化に応じた対応が出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者や各入居者の担当職員が本人・家族・関係者等から意見や要望を聞き、介護計画を作成している。ユニット会議やモニタリングで情報共有を行い、本人の現状に即した介護計画の見直しを定期的に行っている。	利用者毎の担当者が本人や家族からの意見や要望等の情報収集をして、計画作成担当者が原案を作成し、ユニット会議やモニタリングで検討して情報共有し、本人の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に毎日記入し、情報を共有している。記録をもとにユニット会議や介護計画モニタリング等を行い、ケアの実践や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様に協力して頂き医療機関や専門職のアドバイスを受けながらその時のニーズに合わせて対応できるようにつとめている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来訪や地域行事に積極的に参加し、地域との交流を深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約前に主治医の聞き取り、ご家族の意向をふまえながら入所をして頂いている。定期受診を継続し、必要時には介護士・看護師の同行もしている。	以前からのかかりつけ医は、そのまま家族が同行して受診しているが、訪問診療への移行が増えている。看護師が常駐しており、24時間体制で、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の気づき、情報や変化を随時職場内の看護職員に伝えて相談している。その相談をもとに本人様・家族様とも相談し、個々が適切な受診や看護を受けられるように支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入院者に関する情報の提供を医療機関に行っている。家族様や病院関係者と情報交換や相談に努め、早期退院や退院後に安全な支援を行えるように連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応の方針を説明し理解して頂いている。状態の確認を常に行い、更に重度化した際には主治医と連携し家族様、職員で話し合い方針を決めている。	入居契約時に重度化した場合の対応についてを説明し同意を得ている。重度化した場合には、主治医と家族、職員と話し合い、看取りの意向の場合は連携して支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や委員会で発生時の対応について定期的に確認を行い、実践力に繋げている。急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、全職員が確認出来るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年を通して各災害想定、夜間想定避難訓練を計4回実施している。また、併設施設と合同会議で机上シミュレーションし、検討を行っている。避難訓練では地域の自治会や消防と協力し、合同で訓練を行っている。	避難訓練は、消防団や自治会など地域の協力により、隣接する盲人養護老人ホームと合同で年4回実施している。内1回が地震などの自然災害の訓練で、備蓄や備品を整備し、避難先も決めるなど地域との協力体制を築いている。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全体で一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない対応に努めている。ユニット会議にて不適切な言葉かけや対応がなかったかを話し合い、確認し合って対応に繋げている。	人格の尊重やプライバシーについては、ユニット会議で、言葉使いや対応などについて話し合い、検討し確認して対応している。	言葉使いや対応などを会議等で話し合っただけで対応しているが、接遇の研修会を定期的に行い、外部の意見等も踏まえ学ぶことも期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いまた自己決定しやすくなるよう言葉を選び働きかけている。個人によりますが尋ねる声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	体操やレクリエーション、行事等への参加は入居者本人様の希望に沿って支援している。入浴や洗濯等の希望があった場合は、出来るだけ希望に沿えるように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は可能な入居者様には本人様に選んで頂き、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように職員も配慮している。毎日整容を行い、月1回訪問理美容にて散髪・顔剃り・パーマ等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみにして頂けるように毎週献立表を掲示している。毎年野外食や外食行事を実施している。調理レクやおやつ作りで入居者様と職員と一緒に調理をしたり片付けをしている。入居者の体調に合わせて、片づけをして頂いている。	食事は、隣接する養護老人ホームから副食が提供されている。利用者は、職員と一緒に片付けなどを手伝っている。調理レクは、いももちやおでん、お好み焼き、クレープなど多彩で、行事食は、駐車場でバーベキューや出前の寿司などを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者の水分摂取量を毎日記録し、1200ccを目標に水分摂取を勧めている。お粥やソフト食等で食事摂取しやすい物を工夫して提供したり、病気に合わせて低カロリーや減塩の物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の状態を把握し、口腔ケアに実施している。拒否されることもあるが説明し、日々努めている。また、歯科医師からの助言や研修を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	変化があれば、会議時に個々の排泄をどの様にしていくのか良いのか話し合う機会があり、支援をし試行錯誤している。	居室にトイレと洗面台があり、個別の記録から排泄パターンを把握し、カンファレンス会議で職員間で共有して、声掛け誘導して居室のトイレでの自立した排泄に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の際に乳製品を取り入れたり、体操等適度な運動を行っている。毎日最終排便日を記入し、間隔を把握するとともに、予防と対応を行えるように記録している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	個々の身体状態に合わせて週に2~3回入浴を提供している。状況に応じてシャワー浴、清拭を行い清潔の保持に努めている。	浴槽はユニットの三点介助型で、職員に配慮している。入浴は、週2~3回で曜日は決めているが、時間などは、個々の状況に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や生活リズムを把握すると共に、その日によって違う入居者様の状況・状態に合わせて支援を行っている。居室は個々に合わせて室温や照明を調節し、安眠出来る居室環境に配慮しながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	引き継ぎなどで、薬の名前や効果・副作用について職員同士が話し合う機会があり、効果が強い薬には看護師から注意喚起がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や入居者様の現状態に合った役割を考慮し、支援している。毎日のレクリエーションや年間を通しての行事、畑の栽培等で気分転換を図るとともに楽しむ事で張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に敷地内の散歩や外気浴を行っている。お花見やスイーツドライブ、バラ園散策や紅葉狩り等の外出行事を年間を通して行っている。可能な家族様にはご協力のもと、外出や外泊等もして頂いている。	広い敷地内で散歩や外気浴を日常的に支援している。外出行事は、お花見や紅葉狩り、スイーツドライブ、バラ園散策など年間を通して計画して行っている。また、毎年オレンジランに参加するなど楽しみな外出の支援をしている。	年間を通して、計画的に外出行事を行っているが、家族からの意見や要望を聞き、家族と一緒に外出行事を企画検討することを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数人の入居者は現金を所持。外出でおやつ等の買い物する時は支払いできる方にはお願いするなど支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、手紙のやりとりは無くなったが個々で希望があれば電話をかけて頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気の中で広く居心地よく過ごして頂けるように努めている。四季に合った季節を感じる装飾や、行事写真を掲示し、温かみのある空間になるように工夫を行っている。	ホーム内は、全体的に広くゆったりしており、共用空間の居間や食堂も広く、天窓もあり採光や風通しもよい。季節を感じる自然な飾りつけや行事の写真などの思いでの掲示もある。リビングには大きな窓があり、利用者はいつも寛いで居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時の状況に応じて職員がきっかけをつくることもある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者本人様の馴染みの物、馴染みの家具等を居室に置き、安心して居心地よく過ごせるように工夫をしている。	居室にはトイレと洗面台、ベッドが設置されパライバシーに配慮している。利用者は、使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人ひとりのADLや現状態に合った環境を会議等で都度検討し、対策している。転倒や事故無く、安全に自立した生活が送れるような環境作りに努めている。		